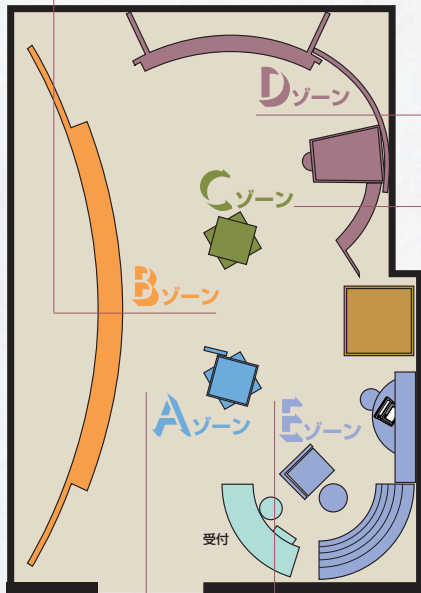


時代をつくる 佃工場とIHIの歩み

石川島・佃島の誕生から石川島造船所創業、佃工場閉鎖を経て現在に至るまでをそれぞれの時代背景とともに紹介し、歴史の中でIHIが果たした役割を紹介いたします。また、日本の重工業界における「はじめて」の製品や技術も紹介いたします。



工場日記

佃工場に働いた人々の心に残るエピソードを題材に、工場勤務の一日のシーンをジオラマで再現しました。高度成長期へ向かって日本全体が活気に満ちていた時代をとりあげ、佃島・月島の土地や人々との交流が、ほのぼのと見えてきます。

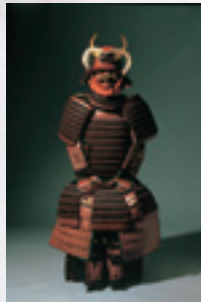
重工業ははじめてものがたり

日本の近代産業の黎明期から現代まで、IHIの手になる日本初、世界初の製品や技術はたくさんあります。日本の重工業史そのものでもあるIHIのものづくりの歩みを、貴重な製品写真の数々で紹介いたします。

メモリアルサロン

多彩な「つくる」を見るライブラリーです。映像ギャラリーとライブラリーがあります。IHIが日本国内や世界各国でつくる名所となった建築や橋梁、石川島に関連する様々な人物、などが貴重な書籍・資料や映像でご覧になれます。IHIホームページへアクセスできる端末もご利用になれます。

「石川島」由来の鐘
現在、当社の社名として残っている「石川島」は、もともと隅田川河口にあった小島の名で、徳川幕府三代将軍家光(1604~1651年)の頃、旗本石川重次がこの島を屋敷地として拝領し、代々居住したことに由来する。石川重次は有名な宇都宮釣天井事件の伝説によると、将軍家光の箭毒を一人で担いでその危機を救った剛力無双の武士であったと伝えられている。この鐘は石川重次が着用したもので、石川氏の子孫から当社に寄贈されたもの。



船をつくる

民間初の蒸気船、石川島平野造船所1番船である「通運丸」。その建造中のドックの情景を、働く職工さんたちとともに再現した模型が創業時の「つくる」現場の雰囲気を生き生きと伝えます。

Aゾーン 船をつくる

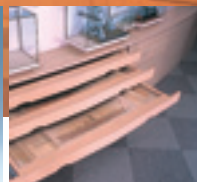


民間造船所初の蒸気船、石川島平野造船所1番船「通運丸」

Bゾーン 時代をつくる 佃工場とIHIの歩み



民間造船所で建造された最初の鉄骨・鉄皮軍艦「鳥海」



図面など関連資料が閲覧できる引き出しケース



「世相・風俗 東京・佃」などさまざまな資料を映像で紹介いたします。



1876(明治9)年日本初の民間洋式造船所、石川島平野造船所を設立した平野富二



旭日丸

Cゾーン 重工業ははじめてものがたり



全国産偵察機CM-1
陸軍の注文で日本人の手で設計、試作された最初の偵察機の一つ。当時月島にあった分工場で1927(昭和2)年に製作された。正式採用には至らなかったが、その技術は石川島飛行機やその後身、立川飛行機へと受け継がれ「赤とんぼ」の愛称で親しまれた練習機のベストセラーとなった95式1型へと発展していった。



75トン ハンマーヘッドクレーン
第一次世界大戦に出征した石川島の技術者が当時ドイツの租借地であった青島で、爆撃によって倒壊したハンマーヘッドクレーンを見て、その長所に着目。帰国後、図面1枚なしで青島での記憶を頼りに設計、製作した。1916(大正5)年に工場の明石町側の岸壁に設置されて以来、50年以上にわたってクレーンや橋梁、鉄構物の組立、船積みなどに佃工場のシンボルとして活躍し続けた。



近江鉄道電気機関車

Dゾーン 工場日記



当時の佃島界隈の情景をミニジオラマで再現します。



当時の佃工場と佃島の地形模型

Eゾーン メモリアルサロン 映像ギャラリー ライブラリー



「石川島一ささまざまなつくり手たち」(3分30秒)
様々な時代に石川島に関わった人々、「鬼平」こと長谷川平蔵、石川島平野造船所を越えた平野富二や渋沢栄一、IHIを世界の企業に押し上げた土光敏夫、などを映像にまとめています。

「世界の風景をつくる」(3分20秒)
石川島造船所の時代から現在のIHIに至るまで、日本・世界各地につくり出してきた人々の心に残る建築や橋梁などを映像にまとめています。